

東京大学 高齢社会総合研究機構

## 在宅医療研修試行プログラムの開催概況について

開講期間：2011年5月21日～10月1日

**IOG** 東京大学 高齢社会総合研究機構  
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

1

### 開業医＋多職種を対象とした 在宅医療の動機付け研修

在宅医療研修試行プログラム  
(2011年5月21日～10月1日)

市町村単位で実施することにより、  
顔の見える関係づくりを促進



\* 歯科医師、薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員、病院退院調整部局スタッフ

**IOG** 東京大学 高齢社会総合研究機構  
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

※2012年3～5月に簡略版開催予定

2

高齡社会総合研究機構 柏在宅医療研修試行プログラム

## 集中オリエンテーション

2011年5月21～22日

## ○目標

1. **プログラムの目標設定**: コンピテンシーの議論を通じて、目指すべき在宅医像を明らかにし、プログラムでの目標を設定する。
2. **集中的知識学習**: 研修のプログラムの学習効率を高めるため、基本的な事項について集中レクチャーを行う。
3. **チームビルディング**: 研修を共にする医師およびコメディカルとのチーム形成を図る。

	テーマ
講義	概論 (21世紀前半の社会と医療、在宅医の果たすべき役割)、地域における連携、アセスメント、がん緩和ケア、医療処置、認知症、多職種協働 (IPW)
演習	在宅医のコンピテンシーに関するグループディスカッション

KJ法を用いたグループワーク



3

高齡社会総合研究機構 柏在宅医療研修試行プログラム

## 多職種連携研修

2011年6月4日/7月9日/7月23日/8月27日



## ①認知症

テーマ

講義	BPSD、薬物療法、成年後見 終末期の意思決定支援
演習	症例検討1: 昼夜逆転 症例検討2: 認知症終末期

## ②栄養・嚥下

テーマ

講義	栄養管理の基礎、嚥下評価
演習	症例検討: 低栄養 実習1: 身体計測、 実習2: 水のみ&フードテスト



## ③褥瘡

テーマ

講義	褥瘡のケア
演習	グループワーク: 褥瘡ケアに おける自職種・他職種の役割 実習: 体圧測定、ポジショニング



## ④緩和ケア

テーマ

講義	オピオイドローテーション、終末期 の輸液、看取り期の薬物療法・家 族対応、他
演習	症例検討1～4: 導入～看取りまで



4

## 在宅実地研修

2011年6～9月



訪問診療同行

全研修回数8回中  
同行総数: 39人/医師1人当たり

患者類型別の平均同行数

- がん : 8.1人
- 神経難病 : 8.0人
- 医学的処置、管理 : 5.3人
- 若年小児 : 1.6人

※上記以外に認知症、COPD等多数

### 受講者の関心に応じて診療同行以外にも体験



緩和ケア病棟回診への参加



サービス担当者会議への参加



訪問看護同行

## 中間/最終振り返り

2011年7月23日/10月1日

### ○学んだこと(抜粋)

- 在宅診療と外来診療との差。家族を含めたサポート体制、相互関係を確立させてゆくことの難しさ。また、歯科、訪問看護、薬局との関係、ケアマネの重要性。(B医師)
- 在宅医療の量、質ともかなり幅が広がっている。従来の往診とはかなり変化している。(D医師)
- 在宅診療では外来診療とは異なる診療スタイルを要求される。これから起こりうることを、在宅では外来で話す以上に説明している印象を受けた。(E医師)

### ○野望(抜粋)

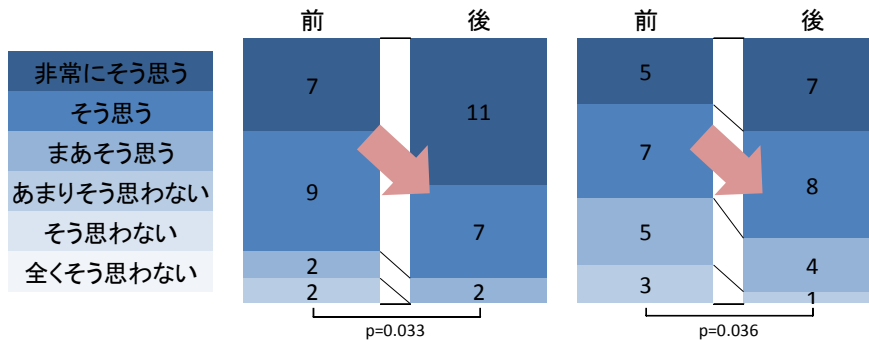
- 現在、訪問診療を必要としている人たちの手伝いが出来るようにしたい。(A医師)
- 豊四季台地域にて1年以内に在宅医療への一歩を踏み出したい。(B医師)
- 在宅研修システムをより効果的に発展し、柏医師会に在宅医療を広げていきたい。(D医師)
- 昼休みの往診件数を、無理のない程度にふやしながら、外来+往診の診療形態にシフトしたい。(E医師)

## 効果評価(終了直後)

## 在宅医療に対する全体的意識

医師、他職種を含めた参加者に、『在宅医療の実践希望』、  
『在宅医療に対する効力感』を尋ねた

在宅医療を実践してみたい 在宅医療を自分でもやっていけそう



**在宅医療に対する前向きな意識が促進**

7

## 効果評価(終了直後)

## 研修プログラムで取り扱った内容の知識・実践力

研修前後で向上幅の大きかった項目: TOP 3

医師	医師以外の多職種
高齢者のせん妄への対応について (知識) $p = 0.026$ (実践力) $p = 0.063$	認知症の終末期のケアについて (知識) $p = 0.001$
認知症の終末期のケアについて (知識) $p = 0.039$ (実践力) $p = 0.102$	自宅での看取りの方法と留意点について (知識) $p = 0.005$
他職種の役割について (知識) $p = 0.034$	褥瘡の患者の全身管理について (知識) $p = 0.002$

- ・医師では知識・実践力とも、医師以外の職種では知識の項目で向上  
→ **実習と講義を組み合わせた研修の効果**
- ・医師で多職種の役割についての知識が向上  
→ **医師以外の職種も研修対象とし、場を共有した効果**

## 効果評価(終了直後)

## 連携状況

職種間のやり取りの頻度を、複数項目で尋ねた

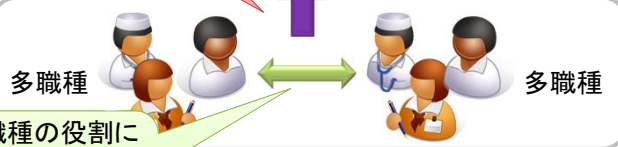
## やり取りの頻度の増加幅の大きかった項目

- 医師が参加する集まりへの参加機会が増えた
- 医師から得た患者情報を管理・活用するようになった



医師

- 多職種から情報提供を受ける機会が増えた
- 多職種から協力の要請を受ける機会が増えた



- 他の機関・職種の役割について知る機会が増えた
- 他機関にいる専門職を知る機会が増えた

**連携の素地作りが始まりつつある**